

英語授業の きほん の「き」

(その2)

今回の質問は、

Q 教科書の英語に、日本語で“ルビ”をふらせてもよいですか？

A ふらせるべきではないと考えます。

ブリング
bring

特に、入門時期、もしくは英語が苦手な生徒が、教科書に“ルビ”をふっている場面を見かけます。苦手な生徒が、その“ルビ”によりなんとか読めるようになるので、それはそれでよいのではないかという考えもありますが、本当に読めるようになっているのでしょうか？ そのふった“ルビ”を読んでいるだけではありませんか？

そう考えると、教科書には、“ルビ”をふらせるべきではないと考えます。



「読むこと」の言語活動のうち最も基本的な技能が

文字や符号を識別し、正しく読むこと

です。

文字を読むことも立派な読む言語活動です。

中学校学習指導要領外国語編(p.15)にも次のように記載されています。

「文字や符号を識別し、正しく読むこと」とは、アルファベットの文字の形の違い、各符号のもつ意味や使い方などを認識した上で、英語の綴りを見て正しく発音できることを言う。「読むこと」の領域の学習は中学校から導入されることを考慮し、小学校からの円滑な接続を図るよう留意することが大切である。

どうしても、読めない生徒のために補助的に“ルビ”をふらせたいという場合は、ノートに書かせてはいかがでしょうか？ 予習等で本文をノートに書かせている場合が多いと思いますので、それを活用するとよいと思います。

教科書には、“ルビ”はふらせずに、しっかり文字を読ませるべきだと思います。そうしなければ3年生になっても読めるものも読めなくなってしまいます……。

小学校では、音声中心の活動を行っており、音声面での語彙は以前に比べ多くなっています。新出表現や新出語句の提示についても、「音声から文字」指導を意識し、工夫することで、生徒が「音と文字」のかかわりを意識できるようになると思います。